

## 幕末明治の写真師列伝 第二十八回 下岡蓮杖 その二十七

蓮杖の死は、大正3年(1914)3月5日付の読売新聞で、「我が邦に於ける寫眞界の恩人、蓮杖下岡傳次郎氏五區に住し、昨年中阿部府知事より、數十年間寫眞界に盡せし功に依り、木盃を下賜されしに、同年十月中より老病に罹り自宅にて静養中、三日午前九時頃永眠せり」と報じられた。

後妻の登和は大正10年(1921)6月7日に亡くなっている。蓮杖の養嗣子、太郎次郎はアメリカの森村組で勤務中の明治32年(1899)8月23日に享年26歳で病死。腸チフスの類の病であった。蓮杖の二男の写真背景師、二代目下岡蓮杖こと下岡東太郎は、大正12年(1923)9月1日に関東大震災に遭遇したこともあり、浅草公園五区四十九番地から妻と共に神田三崎町に移り住み、雑貨商を営んでいたが、大正14年(1925)2月13日に享年59歳で亡くなった。下岡東太郎には長男・富之輔(下岡虹洋)と長女・武野の二人の子がいた。富之輔は立教大学を卒業後、勤め人となって祖父、父の仕事は継がなかった。富之輔には長女、銀子と長男の輝彦がいたが、銀子は、大正12年(1923)10月26日に享年22歳で亡くなり、輝彦も太平洋戦争に学徒出陣して南方で昭和19年(1944)に戦死している。また富之輔も昭和63年(1988)10月18日に享年93歳で亡くなった。富之輔の長女・武野は、山岡京次郎と結婚、重野という娘を儲けた。この山岡重野は石渡(いしわた)隆司と結婚し、平成2年(1990)享年91歳で亡くなっている。蓮杖の三男の下岡蓮葉こと下岡喜代松は明治13年(1880)の生まれで、15歳の時(1895)に蓮杖の弟子である江崎礼二の門に入り、この江崎の推薦で25歳の時に新設された宮内省写真部に勤務した後、蓮杖の弟子の勅使河原写真館の写真技師となったが、その後、生活に貧窮して千葉の柏に隠棲した後、昭和63年(1988)10月18日に横須賀市キリスト教老人ホームにて享年93歳で亡くなっている。この喜代松とその妻つね(旧姓山岡つね)との間には、歌子とふさの二人の娘がいたが、その後は不明。歌子は結婚して実子もいたが、その子は昭和5~6年頃(c1930~1931)に亡くなったようだ。蓮杖の四男の十字郎は明治24年(1891)9月9日にわずか10歳で亡くなっている。以上のことから蓮杖の男系の子孫は全て絶えてしまった。

先妻・美津の長女、よしは慶応元年(1865)12月16日の生まれで、明治26年(1893)に六世尾形乾山(本名：浦野乾哉)の後妻となり、七人の子を産んだが、五番目の子までは全て夭折し、六女の尾形奈美、七女のもとの二人だけが残った。尾形奈美は明治32年(1899)の生まれで、幼い頃より画を学び、初めは蓮杖から画を習い、後に蓮杖の友人であった高屋肖哲に就いている。大正8年(1919)、父に秘して女子美術学校日本画専科三年に編入学し、翌年の卒業後は葛谷竜岬に画を学んだ。葛谷竜岬が没後は堅山南風に師事した。その後、六世尾形乾山に師事したバーナード・リーチの勧めもあって、鎌倉の河村蜻山に師事して陶芸家となり尾形乾女を名乗るも七世尾形乾山の間跡は継がず、六世で尾形乾山の完結を宣し、尾形乾山の名跡を打ち止めた。六世尾形乾山は明治43年(1910)8月11日に発生した関東大水害で、床上三尺の浸水被害にあい、翌月、妻子と共に浅草公園五区の蓮杖の家へ避難している。尾形奈美は結婚しなかったため子はない。平成9年(1997)享年98歳で没。七女のもとは明治38年(1905)の生まれで、その後、城内寛と結婚、登美子を儲けた。この登美子が蓮杖の血を継いでいる一人である。

後妻・登和の長女、ひさは明治18年(1885)の生まれで、最初、中島一郎と結婚するも、後に岩田周作と再婚している。そして雪枝、保、節三の三人の子供を儲けている。

蓮杖の姉・さだは十三代・前田所左衛門と結婚して、このご子孫に十八代・前田英覚(ひでとも)がいる。

蓮杖の本家である桜田家の方は、蓮杖の妹・ふくと臼井吉蔵の養子の幸吉(元治元年(1864)生まれ)が継ぐことになったが、幸吉は36歳で病没してしまったため、桜田家は後継者が無くなってしまった。そのため明治34年(1901)6月に親族会議を招集することとなり、今度は蓮杖の妹・ふくと臼井吉蔵の養子の鶴吉(明治11年(1878)生まれ)が新たに桜田家を相続することになったのだが、この鶴吉も二か月後の8月に病死してしまった。その後、桜田家は確たる相続人がいないまま四年の月日がたち、蓮杖もいたくこのことを憂慮して、次のような書面を残している。

「委任状

一伊豆国下田中原町桜田家の件に付万事貴殿に委任仕候也

明治三十八年十一月七日

東京浅草公園五区四十九番地

下岡蓮杖(印)

伊豆国下田町

前田覚平殿

(註：前田覚平は蓮杖の姉・さだと十三代前田所左衛門の娘・しげの婿養子で、十五代前田家を継いだ人物。旧姓・志村覚平)

このため蓮杖には前以て何の相談もなく、桜田家は蓮杖の妹・ふくと臼井吉蔵の養子の卯之吉(嘉永3年(1850)生まれ)が育てた大賀茂の笹本氏の二男・広吉によって継がれることになった。この桜田広吉は、その後、桜田家の家屋敷を売却し、これによりついに桜田本家は廃絶してしまった。(註：しかしながら桜田広吉の後、茂が継いでいる)蓮杖誕生地である中原町の桜田家の地所は分割されてしまい、346番地と345番の合わせて八十餘坪の敷地が元はそうであったが、現在はその片方に臼井亨氏(臼井卯之吉の子孫)が住まわれている。

(森重和雄)